

看護の質の向上を目指して

—看護管理者と専門看護師の協働—

北見赤十字病院¹⁾ 京都第一赤十字病院²⁾ 富山赤十字病院³⁾ 日本赤十字専門看護師会⁴⁾
 部川 玲子^{1) 4)}、松澤 由香里^{1) 4)}、田中 結美^{2) 4)}、緒方 あかね^{2) 4)}、
 大畑 茂子^{2) 4)}、松倉 早知子^{3) 4)}

日本赤十字専門看護師会の会員は、全国赤十字病院施設において現在10分野54名が所属している（赤十字施設における全登録者数は11分野76名）。専門看護師（以下 CNS）は、水準の高い看護ケアを提供し、組織において改革者として役割を發揮し、看護の質の向上に貢献することを目的として活動している。

CNS の熟練度や活動方法は様々で日本赤十字専門看護師会の調査においても、専従で活動している CNS や、交代勤務で活動時間の定まっていない CNS など幅広いことが報告されている。また近年、経験の少ない初回更新（認定後5年）までの CNS をどのようにサポートするかについて日本専門看護師協議会において話題になることが増えている。

本セッションでは、それぞれの CNS が管理者とどのように協働し組織の改革者として役割を發揮しているか報告するとともに、管理者の立場から CNS の活用について現状と今後の課題について解説いただく。

報告1 名古屋第二赤十字病院より「専門看護室の開設・運営」

副院長兼看護部長 片岡笑美子
 小児看護専門看護師 太田有美

報告2 北見赤十字病院より「専門看護師が行う地域連携・訪問看護」

副院長兼看護部長 上野富衣
 看護師長 がん看護専門看護師 部川玲子 感染対策室 副室長 感染症専門看護師 松澤由香里

報告3 富山赤十字病院より「看護専門外来の開設・運営」

看護部長 岡田芳美
 急性・重症患者看護専門看護師 松倉早知子

その後、ご参加いただいた皆様と広く意見交換を行い、専門看護師や専門看護師を目指す者、専門看護師の活用を考えている管理者の皆様と看護の質の向上について考えたい。